

登録コード	UAA43500	開講年度	2026				
授業題目	ドイツ語学・ドイツ文学実践演習Ⅱ					担当教員	葛西 敬之
						副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・6時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。					⇔	ドイツ語で専門的な資料を読解・解釈し、多様な観点から考察することができる。
(2)授業の概要	「授業のねらい」で述べた目的達成のために、授業は教員による講義・質問と受講生による課題発表・質問を往還的に行うアクティブ・ラーニング形式をとる。本講義ではスイスの作家ローベルト・ヴァルザーの長編小説『盗賊 (Der Raueber, 1925年) 』をケーススタディとして扱う。受講生には課題論文の読み込みや、資料解説・読解の実践を課す。						
(3)授業計画	第1回： 導入、ドイツ文学研究史概観 第2回： ヴァルザー『盗賊』のテキスト批判に関する問題（基礎講義） 第3回： ヴァルザー『盗賊』のテキスト批判に関する問題（課題発表） 第4回： ヴァルザー『盗賊』の伝記的解釈に関する問題（基礎講義） 第5回： ヴァルザー『盗賊』の伝記的解釈に関する問題（課題発表） 第6回： ヴァルザー『盗賊』の脱構築主義的解釈に関する問題（基礎講義） 第7回： ヴァルザー『盗賊』の脱構築主義的解釈に関する問題（課題発表） 第8回： ヴァルザー『盗賊』の物語論的解釈に関する問題（基礎講義） 第9回： ヴァルザー『盗賊』の物語論的解釈に関する問題（課題発表） 第10回： ヴァルザー『盗賊』のディスコース分析に関する問題（基礎講義） 第11回： ヴァルザー『盗賊』のディスコース分析に関する問題（課題発表） 第12回： ヴァルザー『盗賊』の間テキスト性に関する問題（基礎講義） 第13回： ヴァルザー『盗賊』の間テキスト性に関する問題（課題発表） 第14回： ヴァルザー『盗賊』の受容史に関する問題（基礎講義） 第15回： ヴァルザー『盗賊』の受容史に関する問題（課題発表） 期末試験は行わず、期末レポートを課す。						
(4)成績評価の方法	●以下を総合して判定する。 授業内での読解の正確さ、議論への貢献度（50%）、授業で扱われた方法論を作品分析に応用したレポート（50%） ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	(1)授業内で扱われるテキストが完全に理解でき、(2)議論に積極的に貢献した上で、(3)期末レポートにおいて、問題の設定が適切であり、(4)その問題の背景を説明できており、(5)その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(6)先行研究に対して新たな視点が呈示できていれば、「卓越している」。上の項目のうち5つを満たせば、「かなり上にある」、4つを満たせば、「やや上にある」、3項目まで満たせば「合格水準にある」。						
(6)事前事後学習の内容	毎週15-25頁のドイツ語テキストを事前に読み、議論の問題となりうる点を考えておくこと。また担当者は該当箇所の要約を作成すると共に、前回授業のディスカッションのプロトコルを提出する。						
(7)履修上の注意	高度なドイツ語読解能力があることを前提とする。						
(8)質問,相談への対応	オフィスアワー（水曜12時10分から12時40分迄）での面談、もしくはメールにて受け付ける。 アドレス： kasait@shinshu-u.ac.jp（葛西）						
【教科書】	Robert Walser: Aus dem Bleistiftgebiet. Hrsg. von Bernhard Echte und Werner Morlang. Bd.3, Frankfurt am Main 2003. 他						
【参考書】	Lucas Marco-Gisi(Hg.): Robert Walser Handbuch. Leben-Werk-Wirkung. Stuttgart 2015.						